

京都こども文化会館あり方懇談会（第２回）会議録

日 時		平成２９年３月２７日（月）１６時から１７時３０分まで
場 所		職員会館かもがわ第１会議室
出席	委員	勝間喜一郎委員，上林研二委員，日下部潔委員，橘敦子委員， 前野芳子委員，真山達志委員，吉澤健吉委員
	オブザーバー	上京区役所
次 第		<議事> ◇ 議題 １ アンケート結果等について ・会館の現状 ・利用者アンケートの結果 ・施設改修等に要する経費 ２ 今後のあり方について ３ 次回懇談会について

１ アンケート結果等について

事務局から資料１、２、３、４を用いて、アンケート結果等について説明

２ 今後のあり方について

○ 吉澤委員

京都府の総合資料館の在り方検討会の中で総合資料館跡地に、舞台芸術施設をつくるという案がありましたが、現在の検討状況はどうでしょうか。

○ 西川京都府府民生活部長

これからまだ具体的な検討を進めていくという状況ですので、ここで御案内するところまでには至っておりません。また御案内できるようになれば、お示しさせていただきます。

○ 上林委員

私の知る限りでは、自分たちの各種団体が行う催し物については、できるだけ学区の小学校や中学校でやっけてしまおうという傾向にあるように思います。

一方で、いくつかの学区が連合して何かをやるときには、エンゼルハウスのような学校以外のところを利用することとなります。ですから、地元や近隣学区の利用率が伸びないというのは、おそらく連合してやるのが少ないからで、近隣だけを相手にするようなアピールでは、利用増に結びつかないと思っております。

○ 真山会長

確かに、今回このアンケートにお答えいただいた団体が、地域的に集中していますが、それは単にアンケートがそうだったというわけではなく、現に利用している団体

がそうであるということの現れですよ。

○ 西川京都府府民生活部長

京都府や京都市それぞれの広報紙で積極的にPRさせていただいておりますが、比較的近傍の方の利用にとどまっているのが現状ではないかと思えます。

○ 上林委員

最近が高齢者でも、パソコンを使ってホームページを見るということも増えていますが、まだまだ紙媒体による伝達というものに頼っているところもありますので、京都新聞の市民版のまちかど欄等をうまく活用して費用をかけずに積極的にPRしていくべきだと思います。興味ある催事が新聞に載れば、出かけることにつながるでしょうし、自分たちのサークルで催し物をやろうとするときには、新聞で見慣れた京都こども文化会館が頭に浮かび、ここを利用しようという話になるのではないかと思います。

○ 奥田理事長

京都府や京都市の広報紙は無料で掲載いただけますので、発信の媒体として積極的に活用しておりますし、やはり新聞の効果が一番大きいものと考えておりますので、もちろん京都新聞さんには京都こども文化会館の情報を提供し、掲載させていただいております。

また、京都新聞以外の新聞社にも情報発信しておりますが、情報提供しても掲載するかは新聞社の判断で、掲載枠の関係や時期等にも左右されます。3月5日のピアノコンサートは京都新聞の情報ワイドというところに掲載していただきました。残念ながら有料の広報はできておりませんが、可能な限りで積極的に広報活動を行っております。

○ 吉澤委員

昔は地域のコンサート等の細かな情報も市民版のまちかど欄に掲載していましたが、どんどんそれが膨らんできたので、最近の傾向を見ていると、別の広域紙面の情報ガイドというところにコンサート系は掲載されています。もう一つは夕刊の方で、チケットを買っていくようなイベントはそこに掲載していきますので、そこにも京都こども文化会館の情報が載っていると思います。ただ中心はコンサートホールとかロームシアターとかになってしまいます。

春や秋は行事が多いため、掲載されないことが多く、そのときは一般の方がどれだけ参加できるかというところが基準になりますので、個人のバレエ団とかそういう観客が限定されているものに関しては、掲載されにくくなります。

○ 前野委員

アンケートの結果やこれまでの議論をみていますと、一度、京都こども文化会館のコンセプトを明確にするという作業をやらないといけないのではないかと思います。

今まで全然努力をしてこなかったということではないとは、よくよく承知しておりますが、今ある施設の中で、過去にやっていたことの延長線上のようなことを何かしようとしても、やはり現実が示すような動向は認めざるを得ないと思います。

アンケートの結果においても、新しく目を見張るような発見はあまりなかったような気がします。たぶんそうだろうなと思っていたことを追認したようなアンケートの

結果が出てきたような感触があります。同じようなことができる施設で同じようなことをしていたのでは、ただ単に便利な方が来られるだけで止まってしまい、将来的な突破口は難しいと思います。ここからスターがでるような突飛なことがない限り、やはり頭打ち傾向が止められないのかなと思います。まず、一つ下がったところから、京都こども文化会館の存在価値がどこにあって、何が皆さんの求められていることで、その求められていることのうち、何が提供できるのかというところを明らかにしていくといいと思います。

告知の方法を少し変えたからといって、たぶん急に利用率が100%になるということは、申し訳ないですが、ないと思います。床や壁をきれいにしましたとか、トイレを洋風にしましたから、じゃあ皆さん来ていただけるのかというと、そうではないでしょうし、急に何百台分の駐車場が作れるわけでもないでしょう。何をもって京都こども文化会館の存在意義が、地域や利用者、あるいは行政にも受け入れられるところなのかという共通項のようなものを見つけて、その上で、せっかく改修するなら、こういうところにもう少し力を入れましょうとか、費用をかけられるなら屋上駐車場にしましょうとか、すごく大々的なこともできるのかもしれない。

駐車場がないということが致命的な欠陥という結論であれば、地下でも屋上でも駐車場何台かでもスペースをとるということは可能かもしれませんが、舞台があるようなホールは、すでにいろいろなところにあるから、そこに競争させるような特性、差別化みたいなことができないのであれば、いっそのことホールをやめて、多目的スペースにするという話だってあるかもしれません。

子どもだけではこの少子化の中やっていけないというのは明らかですけれども、子どもを絶対外したらいけないのか、たとえば子どもと高齢者だけだったらいいいのか、文化というところをもっとクローズアップするという試みをしていいのかというようなところも、考えていく必要があると思います。

○ 真山会長

ホールを持っていますと、貸館事業のほか、何か催しものとかコンサートなどを企画してお客さんを集める自主事業をやらなければなりません、おそらく600人ぐらいの規模のホールですと、自主事業で収益をあげるというのはかなり厳しいと思います。仮に満席にしてもそんなに儲からないどころか、赤字が出る可能性があると思いますので、やはり貸館でお金を稼いでいかないと、なかなか厳しいのではないかなと思います。

しかしアンケートと他施設の資料をみていますと、やはり交通アクセスというのはかなり決定的な要素になっていると思います。交通アクセスというのは京都こども文化会館がいくら頑張ってもなかなか手が出せないというか自分でどうしようもないという部分があると思うので、ここが頭の痛いところかなと感じております。

○ 上林委員

施設の改修に要する費用について、建替えが21億で修繕が10億ということですが、修繕するとどれぐらい延命できるのでしょうか。また、建替えとなったときには、何年で次の陳腐化がくるのでしょうか。

○ 西川京都府府民生活部長

建替えとなると、京都こども文化会館が35年前後でこういう状態になっていますので、同様の期間ということになるかと思います。また、修繕についても、給排水等含め設備の大半を改修しますので、建替えた場合と近い期間の利用が可能かと思いますが、コンクリート等、どの程度の劣化が進んでいるのかというのは調査してみないとわかりませんし、これはあくまで過去のデータ等を用いた机上の試算だけです。改修等を行った際に、どの程度利用できるかというのはわかりません。調査にも費用がかかるため、既存のいろいろなデータ等を踏まえて考えているというところでございます。

○ 上林委員

同じ施設として、再度デビューしたときに、脚光を浴びてまた利用者が増え、そして30年程度の利用ができるということであれば、修繕をした方が安くつくということでしょうか。しかし、先のご意見のように新しいことも考えないと話にならないということであれば、これは建替えということも考えられます。

そのあたりを数値的に出せないでしょうか。

○ 西川京都府府民生活部長

今のお話のことを数値化するというのは非常に難しいと思います。ただし、将来的なニーズも含め、どの程度の費用をどういう政策にかけていくのかということは検討する必要があると思います。

京都府では公共施設等管理計画を議論しておりまして、その中で京都こども文化会館についても検討しております。その中で、先ほどご指摘いただいたとおり、この施設がもっている主旨が将来にわたってどの程度必要なのかという将来的なニーズや、施設の集約化、地域における公共施設の最適化等、今後の公共施設のあり方についても検討していかなければいけません。費用をどの程度かけていくのかというのは、その議論の中で検討させていただくと思いますが、数値化はなかなか難しいかなと思います。

○ 前野委員

あの地域でどれだけのものが建てられるのか、計画あるいは景観等制限があるなら、まず、それも確認しておかないといけません。北野天満宮をはじめ近隣に大きなお寺さんもありますのでそういうものとの調和のことも考えるとしたら、建てられる範囲も確認しておかないといけません。

また、建替えに21億かかるとして、それで30年利用できるとすると、1年で多分7,000万ぐらいの償却になる。そうすると月に600万かかることとなり、600万かけて何するのかという観点を見る必要があります。

30年使えれば良いというものでもなく、利用していない日でも1日20万の費用がかかるといわれたら、かなりのものができない限りは、税金投入して良いのかという話は当然起こると思います。1日10万程度であればよいが、1日20万超えたらそれよくないという発想もあると思うと、非常に難しいと思います。

○ 真山会長

建替えあるいは修繕に要する費用の試算は、今の機能と同じものを建替えるとか今

の機能を維持したまま修繕するということで御理解いただけたらと思います。建替えといっても、ホールとは違うものに建替えるのであれば、京都こども文化会館としては廃止したということになります。

今回のアンケート調査において、京都こども文化会館を使ってない人や今まで使っていたけれども、使わなくなった人については、残念ながら答えてくれいていません。しかし、そういう人達が、京都こども文化会館をどう見ているのか、将来使う可能性があるのか、ということをおある程度調べる必要があると思いますが、そのあたりの調査は可能でしょうか。

○ 中川京都府青少年課長

以前にお使いいただいていた団体さんにも今回アンケートをお送りしましたが、お答え頂けなかったというのがありますので、直接ご連絡をして、ヒアリングさせていただくという方法をとれば可能かとは思いますが。

○ 真山会長

現に使ってもらっている団体がある中で、軽々しく必要ないということとは言えないので、やはり使う人がたくさん出てくるようであれば、存続というのでも一生懸命考えないといけないでしょうし、そういう意味からすると少なくとも以前使っていた方々や団体がなぜ使わなくなったのか、ということと、今後どのような条件が揃ったら、戻ってきていいと思っているのか、あるいはもう戻る余地はないと思っておられるのか、そのあたりを聞き取り調査でも、少しデータとしてあるといいのかなと思います。

○ 日下部委員

京都こども文化会館は、名称に子どもとついているから子どもに関わることしか使ってはいけないと思われているかもしれません。

児童館では、児童という法的に18歳までで、児童館の夜間の利用は、20時から18歳以上のみ、それから青少年活動センターでは青少年は30歳ぐらいまでと幅があるので、そのあたりについてもこれからの課題があると思います。

○ 西川京都府府民生活部長

エンゼルハウスというぐらいなので、おそらく建設当初は20代30代というのは対象にしてなかったと思いますが、現在、青少年の活動が多様化している中で、将来どうあるべきかということについて分析をしながら整理をしていきたいと思っています。

○ 真山会長

今日結論を出すということではないので、いろいろご意見いただいておりますが、この後どこへ収束していくのかが、見えない段階ではあります。今までの話では、「こども・青少年育成」というところに主眼をおいたホールであることを前提にしたときに、このままりリニューアルし、現状の利用方法で維持していくことが一番わかりやすい方法ではありますが、「こども・青少年育成」という限定された目的ではなく、単にホールとしての施設というところから、ホールという機能もはずした、もっと違う公共施設にしてはどうかというところまで幅があると思います。

また、そもそもあの位置に、京都市や京都府としての公共施設は必要なく、民間売却でもなんでもいいから跡地利用をやればいいという、別の用途として使うという方

向もあると思います。

○ 日下部委員

こども文化会館の運営に府と市の補助金が年間6,000万かかっており、建替えればさらにかかるので、利用者さんがそれだけ満足なさっていて、それだけ税金をかける意味があるのかということ、ここにいるみんなが納得できないといけないと思います。

○ 真山会長

この施設は土地が京都市で、建物が京都府ということで、府市協調と言えれば聞こえはいいが、どちらかだけでは決められないという難しい面もあり、また、周辺の団体からみたら、使い勝手の良い便利なところにある施設なので、それなりに使っておられるわけですが、京都府の施設だということを考えると、京都府がある特定の地域の人たちだけのために施設を維持管理するということが、果たして、府民全体に対して、説明のつく話なのかということも出てくるでしょう。

そういうことを考えていくと、まず現状をしっかりと把握して、それに対して土地という点では京都市民が、施設という点では京都府民全体が納得できるような方向性を考えないといけないと思います。現に利用されている団体があるので、できるだけそういう人たちに「もう来年からはだめですよ」と切り捨てるようなことにならないのが一番いいとは思いますが、だからといって21億かけて建替えをして、今後もお使いくださいということが成り立つかということとたぶん無理でしょうということも、常識的には考えられます。

その辺を懇談会として、別に結論を出すまではいかないにしても、こういう要素を議論して、こんな方向性があるんじゃないですかというときに、それを聞いた一般の人たちから、必要なことは検討したよねと言ってもらえるようなことはやっていかないといけないと思います。

3 次回懇談会について

○ 真山会長

今回は、論点整理をしてあり方を少し集約していきたいと思います。また、議論に必要な資料等についてもご提示いただきたいと思います。

○ 安見京都市児童家庭課長

では、こども文化会館を使わなくなった方からニーズ調査を行った上で次回に提示をさせていただきます。

時期については事務局の方から日程調整をさせていただきます。本日は、皆様お忙しい中御出席いただきありがとうございますございました。